



## 舞台公演

Performing Arts

東北民俗芸能に、和太鼓ほかジャンルを超えたさまざまなミュージシャンが加わってつくりあげたステージを、3カ国8都市で展開しました。歴史と伝統のなかに育まれた民俗芸能を通じて、世界の人に「東北」を伝える企画です。

厳しい自然風土の中でたびたび飢饉や災害に見舞われた歴史を持つ東北地方に伝わる民俗芸能は、鎮魂、供養の要素を色濃く有していると言われ、そこに住む人びとを常に慰め、力づけてきました。以前より高齢化や過疎化の問題を抱えていた東北民俗芸能は、地震と津波によってさらに、ほとんど壊滅的と言ってもよい被害を受けました。しかし、震災直後から、住民自らが残った道具を探し出し、補修し、他地域からの支援も受けながら、命を落とした方たちへの鎮魂の想いを込めて再開した民俗芸能も少なくありません。それは、郷土芸能や神事、祭りが、人びとのアイデンティティの拠り所として欠かせないものであり、被災した故郷から離れた場所で避難生活を送る人達にとっては、心を故郷に結びつけるものであるからかもしれません。

震災から1年を経て、その東北の民俗芸能を中心とした公演を、米国、フランス、中国の3カ国8都市で行いました。岩

手県内陸部において震災直後から沿岸被災地支援の拠点となった遠野市の湧水神楽、甚大な津波被害を受けた三陸沿岸・宮古市と大槌町からそれぞれ黒森神楽と臼澤鹿子踊、めいめい地元の想いを携えて世界の舞台に立ちました。

公演は、これら東北民俗芸能に、エネルギー溢れる和太鼓演奏で知られ、震災後は積極的に被災地での瓦礫撤去等ボランティア活動に取り組んできた鬼太鼓座、さらにジャズミュージシャンや沖縄三線、女流義太夫など、東北出身のアーティストを中心に現代日本を代表する計18名のミュージシャンが結集したユニークな音楽ユニットにより行われ、各地で観客のスタンディングオベーションを呼び、会場は熱気に包まれました。公演に先立ち、各地の子ども達を対象に竹楽器づくりのワークショップを行い、その子ども達も共演者としてコンサートに参加しています。

## 実施された公演

### 米国公演

日程	出演者	都市	公演・ワークショップ	会場	観客数(概数)
2012年3月1日	湧水神楽と 鬼太鼓座 & Musicians	ロサンゼルス	ワークショップ	ミュージック・センター アーマンソン・シアター	1,400人
2012年3月2日		公演			
2012年3月4日		ニューヨーク	ワークショップ	アベニュー・C・スタジオ	1,000人
2012年3月6日		公演	リンカーン・センター ローズシアター		

### 国連公演

2012年3月5日	湧水神楽と 鬼太鼓座 & Musicians		公演	国際連合総会議場	1,600人
-----------	---------------------------	--	----	----------	--------

### フランス公演

2012年3月9日	黒森神楽と	パリ	ワークショップ	バレ・デ・コングレ	600人
2012年3月10日	鬼太鼓座 & Musicians		公演		
2012年3月11日	黒森神楽		公演	リセ・インターナショナル・サンジェルマン・アン・レー校	350人

### 中国公演

2012年3月13日	臼澤鹿子踊と	北京	ワークショップ	国家大劇院	1,700人
2012年3月14日	鬼太鼓座 & Musicians		公演		
2012年3月16日		上海	ワークショップ	大寧劇院	700人
2012年3月16日		公演			
2012年3月20日		重慶	ワークショップ	重慶大劇院	800人
2012年3月20日		公演			
2012年3月22日		広州	ワークショップ	広州大劇院	300人
2012年3月22日		公演			
2012年3月23日			ワークショップ	広州大劇院	300人
2012年3月23日		公演			
2012年3月26日		香港	ワークショップ	九龍湾国際展覧センター	300人
2012年3月26日		公演			

## 出演者

米国公演：湧水神楽（岩手県遠野市）



1932年に地元の農家の人たちが結成された湧水（わくみず）神楽は、『遠野物語』で女神が住む山とされた早池峰山（はやちねさん）周辺を本拠地とする。この山に入り、神と交信する力を身につけるために修行を積んだ山伏によって生み出された舞が原型とされ、太鼓と鉦、笛の演奏で、面をつけた人が舞う形を基本としている。現在は、収穫後や正月に、安全や豊作を祈る舞として地元の神社に奉納されたり、公民館などで舞われるなど、地域の大切な行事となっている。遠野市は、津波で被害を受けた沿岸部から約50キロ内陸に位置し、全国、全世界からのボランティアの拠点となっている。同地にはアメリカからのボランティアも多数訪れており、神楽メンバーは舞台上立つにあたり「全員が、これまでの支援に深く感謝し、世界の平和を祈りながら舞うつもりであります」と想いを語った。

フランス公演：黒森神楽（岩手県宮古市）



岩手県宮古市の黒森神社を本拠地とする。この地域には近世以来、山伏が布教の手段として演じていた神楽が数多く伝えられ、各地域の氏神である神社や集落を短期間に巡回していたが、それらの神楽衆の中でも、舞や囃子の上手を集め、数カ月にもわたる長い巡回を行ってきたのが黒森神楽である。津波で甚大な被害を受けた岩手県陸中沿岸地方の広い範囲を、北廻りと南廻りと1年おきに廻村する巡回を伝承してきた。広範囲に長期にわたる巡回を行う神楽は全国的に見ても例がなく、また、山岳信仰の系譜につながる霊山としての黒森神社への畏敬の念と、沿岸部で古くから営まれてきた漁業を基礎とした文化が融合した独特の勇壮な舞と囃子である。この地域の生活に密着した貴重な習俗が現在も受け継がれていることから、2009年に国の重要無形民俗文化財に指定されている。

中国公演：臼澤鹿子踊（岩手県上閉伊郡大槌町）



大槌町を本拠に5団体が継承しているこの鹿子踊は、約400年前、海産物の交易船に伴い関東から伝わったとされ、平和祈願、先祖供養、魔除けのため、ことあるごとに舞が催され、現在でも家や蔵、船、馬小屋などが完成すると舞が呼ばれるという。農業中心の暮らしと密接に結びつき、耕す、荷車を押すなどの動作が舞に表われる。なかでも、シカの頭を模した兜を着けた舞手と、刀を持ち里の人間に扮した舞手が太鼓と横笛の音にあわせて仲良く踊るが、ひとたび互いの境界線を侵せば、人は刀を抜き、シカは角を突き、相手を追い返す仕草には、互いの領域を侵さず共生しようとする古の伝えが込められている。大槌町は大きな被害を受け、メンバーに被災者がたばか、衣装や道具も流され、稽古場も避難民であふれたが、町の復興祈願のため4月には早くも公演を再開した。

出演者

鬼太鼓座 & Musicians



スタッフ  
総合演出：田村光男 制作：斎藤美乃、若鍋聡志、大石宏樹、霍虹 舞台監督：宇佐美敏彦、佐藤英輔  
音響：風上哲也、梶野泰範 照明：岡田勇輔、大久保尚宏



鬼太鼓座は、1969年、創設者の故・田耕(でんたがやす)の構想のもとに集まったメンバーによって佐渡を拠点に結成された日本を代表する太鼓グループ。東日本大震災復興支援の活動も精力的に行っている。今回の公演では海外でも活躍する、パンブーオーケストラの北村公宏、アルトサクソ奏者の梅津和時率いる梅津ちびプラス、パーカッションの越智ブラザーズ、ピアノ・シンセサイザー奏者の野崎洋一、沖縄三線・唄の池田卓、無国籍・ノンジャンルシンガーおたか静流、義太夫・三味線の田中悠美子らが加わり、各地で迫力ある舞台を展開した。

2012年2月11日、鬼太鼓座は、釜石市で郷土芸能を伝承する集団、桜舞(おうぶ)太鼓から太鼓ばちとのぼりを託され、被災地の想いととも今回の一連の公演に臨んだ。

撮影：Lee Wexler

公演とともにワークショップを開催

公演に先立ち、各地の子ども達とのワークショップも行われました。日本に多く自生する竹を素材とし、出演者やスタッフの指導で子ども達が楽器を制作するものです。竹を細長い板状に加工して打楽器のようにたたいたり、竹の筒に穴を開けて笛のように吹いたり、手づくりの楽器で音を出

し、勇壮な太鼓やミュージシャンと合奏する一連のワークショップに、子ども達は真剣なまなざしで取り組みました。ワークショップに参加した子ども達は自作の楽器を手に舞台上に登場し、合奏に加わってステージを盛り上げました。

上段右の撮影：Nobuyuki Okada



ニューヨーク国連総会議場での公演

3月5日、ニューヨークでは、世界から寄せられた支援に謝意を表明し、日本が復興に邁進している姿を国際社会に伝えることを目的に、国際連合本部総会議場で公演を行いました。国際連合本部の総会議場を観衆が埋め尽くすなか、公演に先立ち、潘基文国際連合事務総長よりスピーチがありました。潘事務総長は、震災後訪れた福島での若者たちとの出会いに触れながら、「世界は忘れていません。いまだに多くの人が家に帰れないことを私達は知っています。経済的損失が莫大であることも理解しています。そして、多くの傷は完全に癒えることがないであろうこともわかっています」、「しかし希望の兆しも数多く見られます」と述べました。そして、震災、津波、原発事故の経験を生

かし、我々がより強く、より活力をもちより団結していかなければならないというメッセージを日本語を交えながら述べ、「今夜のパフォーマンスから励ましを得て、明日の困難を克服しましょう。国連も世界も日本を応援しています」と締めくくりました。演奏は、この日の公演が日本にとどまらず世界中の災害や紛争による被害者に捧げられるものであるとしてスタートし、湧水神楽と鬼太鼓座& Musiciansが潘事務総長の言葉に応えるように、力強い演奏を披露しました。広い総会議場には熱気が満ち、公演は大盛況のうちに終了しました。

\*潘基文事務総長のスピーチは、UN News Centreのホームページ(英文) および国際連合広報センターのホームページ(和文)で全文をご覧ください。



1. 潘基文国連事務総長夫妻(中央)、国連日本政府代表部西田恒夫大使夫妻(左)らを抱んで/2.「国連も世界も日本を応援しています」と話す潘国連事務総長/3. 国連総会議場での公演の記念として、公演ポスターに潘国連事務総長と出演者全員がサインをした/4. 終演後、会場はスタンディングオベーションがやまず、熱気に包まれた

撮影：Lee Wexler